

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	一般社団法人パペットナビゲート	
施 設 名	人形劇場とらまる座	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	10,233	(千円)
	公 演 事 業	9,212 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	1,021 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	定期人形劇公演事業1 (招聘プロ劇団公演)	2020年7月11日 ～2021年3月27日	上演：国内プロ人形劇団19劇団 上演時間約60分の人形劇プログラム 期間中 計69公演実施	目標値	9,660
		とらまる座ホール		実績値	3,700 ※
2	定期人形劇公演事業2 (委託プロ劇団公演)	2020年4月4日 ～2021年3月28日	上演：とらまる人形劇団 上演時間約60分の人形劇プログラム 期間中 計34公演実施	目標値	4,500
		とらまる座ホール		実績値	994 ※
3	特別人形劇公演事業1 (ハイアート・大型人形 劇公演)	2020年5月2日・3日 (中止) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により 中止	目標値	240
		とらまる座ホール		実績値	0 ※
4	特別人形劇公演事業2 (海外劇団作品公演 A：国際舞台芸術機関連 携企画公演)	2021年3月20・21・23日 ※	人形劇団むすび座(20・21日) 「せんたくかあちゃん」ほか 江戸糸あやつり人形(23日) 「江戸糸あやつり人形の世界」	目標値	240
		とらまる座ホール		実績値	125 ※
5	特別人形劇公演事業3 (海外劇団作品公演 B：チェコ＝日本国際交 流100周年記念公演)	2020年8月10・11日 2020年11月7・8日 (中止) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により 中止	目標値	330
		とらまる座ホール		実績値	0 ※
6	特別人形劇公演事業4 (海外劇団&国内劇団 共同制作作品公演)	2020年5月23・24日 (中止) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により 中止	目標値	240
		とらまる座ホール		実績値	0 ※
7	ベイベーシアタープロ グラム公演事業(低年 齢乳幼児対象公演)	2020年5月16・17日 (中止) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により 5月のプログラムは中止 9月：「かぜのうた」 上演：表現教育研究所	目標値	80
		とらまる座ホール(舞台)		実績値	29 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	東かがわ市内人形劇巡回公演事業	2020年8月4・27日 9月2日※	上演：とらまる人形劇団 演目：「ききみみズキン」ほか コロナ禍の影響により 当初計画7園→実施3園	目標値	1,050
		東かがわ市内こども園		実績値	179 ※
2	東かがわ市小学生人形劇団育成事業	2020年6月9日 ～2021年2月9日	講師：貴志周、佐藤かおり 参加者：小学校人形劇クラブ員 人形劇の創作、上演 活動指導 計37回	目標値	180
		市立 大内小学校		実績値	330
3	人形劇小作品公演事業（劇場外公演）	2020年4月 ～2021年3月	上演：招聘プロ劇団（5劇団） 施設パフォーマースタッフ 約20分の人形劇小作品公演 期間中 計180公演実施	目標値	7,500
		とらまる人形劇 ミュージアム		実績値	2,807 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
<p>●人形劇場とらまる座のミッション</p> <p>○人形劇文化の芸術的価値の啓蒙および社会的認知の向上 ○文化的社会包摂の実現</p> <p>○人々の「生きる力＝想像力・創造力・コミュニケーション力」の育成</p> <p>○地域芸術文化振興の拠点 ○地域特有文化の発信拠点</p> <p>【公演事業】</p> <p>当館のミッションにもとづき、子ども～大人まで多世代で鑑賞できるプログラムを中心に、対象年齢が高いプログラム、低年齢乳幼児を対象としたプログラムなど、幅広いバリエーションで公演企画を計画し、実施した。当年度は、定期公演事業および特別公演事業において、計 23 劇団による計 108 公演を実施。</p> <p>【普及啓発事業】</p> <p>当館のミッションにもとづき、市内子ども園でのプロ劇団による無料巡回公演 3 公演、小学生劇団の活動講座 41 回、人形劇小作品の劇場外公演を計 180 公演実施した。</p> <p>【自己評価】</p> <p>コロナ禍の社会において芸術文化活動が多大な制限を受ける中、年間 100 回を超える劇場公演・180 回の劇場外公演・地域内での普及啓発公演・小学生劇団の活動を実施したことは、ミッションの実現および芸術文化活動の再興に寄与する大きな意義があったものと捉えている。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<p>人形劇場とらまる座では、人形劇の専門家でありながら医療分野に精通する経歴ももつ館長の指導のもと、感染症対策と芸術文化がもたらす社会幸福の意義を両輪として、コロナ禍中の 2020 年度においても、当初計画の事業構成要素をほとんど欠くことなく実施してきた。これは、当地域の感染状況が都市部等に比して緩やかであったことも幸いしているが、世間の過剰な反応にとらわれず、人間社会の本質と芸術文化の意義を見失うことなく、また、適切な感染対策の実施と共に各事業を実施してきた運営側の理念と実務力、来訪者・参加者および地域住民の理解と支援があつてのことと総括している。「人形劇があつて良かった」「コロナの中で久しぶりに楽しい思いをさせてもらった」「大変だろうけど頑張っしてほしい」・・・ともすれば『劇場空間』自体が批判的に捉えられる状況で、来訪者から頂いた言葉は、施設運営者および人形劇団（芸術創造者）にとって大きな励みとなるとともに、その社会的意義を再認識することにつながった。</p> <p>人形劇場とらまる座は、人形劇～子どもの舞台芸術文化の創造・発信拠点として、また、都市部に比しての芸術文化格差が否めない地方地域：東かがわ市～中国四国地方において、日常的に本格的な舞台芸術に触れられる重要な存在となっている。劇場空間と舞台鑑賞機会の意義＝「多種多様な人々が同じ体験を共有する場」という意義が社会包摂の実現に向けても重要視されている中、世代や人種を選ばない魅力をもつ「人形劇の劇場空間」は、コロナ禍において大きく損なわれた「人のつながり＝社会幸福の本質」を回復し、健全な人の営みを取り戻すためにもその意義を増していると考えられる。舞台芸術鑑賞機会に乏しい地方地域において、人形劇機関・劇団と太いパイプを持ち、優れた企画の実施力を備えた地域特有劇場である当劇場では、元来、予算規模の小さい地方小劇場でありながらも各種助成金の活用により内容を充実させた企画を実施している。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

とらまる座のミッション実現に資する当年度目標と実施実績は以下の通り

【公演事業】

- ①人形劇場とらまる座の主催公演入館者数（定期公演・特別公演・地域貢献公演）＊地域貢献公演は助成対象外
基準目標：11,000人以上 実績：5,580人 達成率：50.7%
- ②プロ劇団による幼児～大人まで全年齢対象型の人形劇公演（定期人形劇公演）の年間公演数公演数
基準目標：100回以上 実績：101回 達成率：101%
- ③海外劇団公演・ハイアート・大人向け・大型人形劇など高度な芸術性を有する人形劇公演（特別公演）の公演数
基準目標：3回以上 実績：5回 達成率：167%
- ④東かがわ市民のとらまるパペットランド会員 入会を積極的に誘致し、公演鑑賞・施設利用の促進を図る。
令和2年度新規入会者数 目標：176人 実績：75人 達成率：43%

（総括）

令和2年度は新型コロナウイルス禍により、入館者数を50%に制限しての運営であったことや世間一般の「余暇活動意欲」が半減している状況により、当事業の入館者数は例年の約半数であった。しかしながら、諸地域の文化施設において自主事業数・観客数が6割～9割以上の減少が多数を占める状況を鑑みると、当館における利用人数項目における約50%達成はかなりの健闘と評価できる。また、公演数においては目標を達成した実績は、コロナ禍社会における芸術鑑賞機会および芸術文化活動の継続・再興に大いに貢献しているといえる。

【普及啓発事業】

- ①東かがわ市内の巡回公演 公演数・観客数
目標（設定指標）：7公演・1050人 実績：3公演・179人 達成率：42.9%・17.0%
- ②人形劇ミュージアム小作品公演 公演数・観客数
目標（設定指標）：290回・1050人 実績：180回・2807人 達成率62.1%・42.3%
- ③自主製作小作品の地域内公演実施会場
目標（設定指標）：5か所 実績：1か所 達成率20%
- ④小学生劇団の活動指導数
目標（設定指標）：15回 実績：37回 達成率247%

（総括）

当館の地域貢献事業にあたる普及啓発事業のうち劇場外での公演を主体とする事業については、当年、新型コロナウイルス禍の影響により、実施会場・公演数・観客数は当初計画よりも大幅な減少を余儀なくされたが、事業意義を鑑み、一律の全面中止ではなく可能な限りの実施を模索し一定の実績を保持できたことは評価できる。また、小学校の人形劇クラブの活動指導においては、年度当初は活動自体が全面中止となる懸念もあったが、結果的には活動指導体制の強化、創作活動の向上（中学校家庭科クラブとの共同製作、昼休みの特別活動）など、活動内容をより充実させて実施することができた。

本事業は人形劇文化の地域内振興および、芸術文化活動の裾の緒を広げる意義が大きい。コロナ禍において芸術文化に接する機会が大きく失われている昨今において、規模縮小ながらも計画事項の全てを実施したことは、芸術文化振興はもとより、健全な社会幸福の復旧にも貢献できたものと思われる。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演事業】

①定期公演事業

当初計画 2020年4月～2021年3月 計22劇団・114公演

実績 2020年4月～2021年3月 計20劇団・103公演

②特別公演事業

当初計画 ①海外劇団公演 2020年5月・2公演、8月・2公演、11月・2公演

②大型作品公演 2020年5月・2公演

③国際機関連携公演 2020年5月・2公演

④国内外共同制作公演 2020年5月・2公演

⑤低年齢乳幼児対象公演 2020年5月・2公演、9月2公演

実績 ①…中止 ②…中止 ③…2021年3月・3公演（劇団及び演目変更）

④…中止 ⑤…5月公演中止、9月公演は計画通り開催

●事業費について

助成対象経費総額 予算額 26,895,000円 / 決算額 21,854,203円 / 変更額 5,040,797円（18.7%減）

新型コロナウイルス禍の緊急事態宣言発令により5月の公演は全面中止、また、海外劇団企画は通年として中止となった。当館では、舞台芸術鑑賞機会および芸術文化活動の減衰を防ぐため、8月・1月・3月の計画空き日に定期公演事業の追加公演を企画・実施した。この追加公演は、中止となった特別公演企画の代替を兼ねており、特別公演事業が中止となって生じた予算の一部を投入し、特別公演に当たるグレード（作品規模が大きい、出演者数が多い、上演料が高額）のプログラムを当該事業において計画・実施することができた。全体としての事業費設定・執行状況は適切であったと言える。

【普及啓発事業】

①東かがわ市内人形劇巡回公演事業 当初計画 2020年7月～9月・7公演（7会場）

実績 2020年8月～9月・3公演（3会場）

②東かがわ市小学生人形劇団育成事業 当初計画 2020年4月～21年3月・活動指導15回

実績 2020年6月～21年2月・活動指導37回

③人形劇小作品公演事業（劇場外公演） 当初計画 2020年4月～21年3月・285公演（5会場）

実績 2020年4月～21年3月・180公演（1会場）

●事業費について

助成対象経費総額 予算額 2,814,000円 / 決算額 2,509,637円 / 変更額 304,363円（10.8%減）

新型コロナウイルス禍の影響により、①・③について公演数が減少して生じた余剰予算は、②の活動の充実化（中学校家庭科クラブの人形製作協働の指導、活動指導数の増加）および③小作品プログラムのグレードアップ（プロ劇団の招聘公演）に充てることにより、実施事業の内容拡充が可能となった。全体としての事業費設定・執行状況は適切であったと言える。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

○施設概要

「東かがわ市とらまるパペットランド」は、日常的に(年間100回以上)プロ劇団の人形劇公演を開催する「人形劇場とらまる座」、国内唯一の人形劇の体験型博物館「とらまる人形劇ミュージアム」を有し、舞台芸術ジャンルにおいて、舞台作品鑑賞と実演体験を同時に楽しめる全国でも希少な複合施設であり、国内唯一の人形劇の複合施設(テーマパーク)である。

1992年の人形劇場とらまる座の設立から現在に至るまで、とらまるパペットランドの文化事業は人形劇～子どもの舞台芸術文化の創造・発信拠点として、東かがわ市～中四国地方・西日本広域における重要な存在となっている。また、施設運営のみにとどまらず、多岐にわたる地域貢献事業、アウトリーチ活動の取り組みは、高度な専門性を有する優れた文化施設運営・地域文化創生事業のモデルとして多方面から注目されている。

○運営特記事項

人形劇場とらまる座の運営は、文字通りの「人形劇専門劇場」としての運営に徹している。

自主事業企画人形劇公演を年間100回以上開催し、地域アマチュア劇団の活動支援関係以外の一般貸館事業はほとんど実施していない。「人形劇専門劇場としての主旨を明確に保持するため、とらまる座は人形劇以外の事業には使用しない」=開設当初に掲げられたこの運営理念と、現館長を筆頭とする常在職員の高度な専門性が、田舎町小劇場の「国内屈指の事業・運営実績を誇る人形劇専門劇場」としての現在を支えている。

○人形劇公演事業について

当事業は、年間100回以上という回数に加え、地域やその劇場限定的な劇団の公演ではなく、全国各地のプロ劇団の人形劇公演を、年間を通じて定期的に開催している。ただ種類が多ければよいということではなく、自らも人形劇の専門性と創造者としての技能を持つ芸術監督により、劇団としての創造性や作品の質が吟味された上で、さまざまな劇団の作品を種類豊富に提供することは、人形劇文化の奥深さを啓蒙する上で有意義なものであり、プログラムのバリエーションを多く持つことは、リピーター集客戦略としても有効なものである。

また、各劇団の公演時には基本的に芸術監督による批評対話が実施されている。当館芸術監督の劇評は芸術創造者である劇団からも定評があり、とらまる座での上演および作品評価は劇団にとっても創造性刺激の機会とある種のステータスとなっている。

○当年の事業実績と社会的意義

2020年度は、コロナ禍の影響により芸術文化活動が未曾有の危機に見舞われた(現在も未だその渦中である)。芸術文化の危機は社会の『心』の危機である。当館においても、2020年4～5月には休館を余儀なくされ、海外劇団関係のプログラムは全て中止(次年度への延期)となった。事業の全面中止も懸念される状況であったが「人のアナログの力が結集した総合芸術」「多元的多様性を包含し、人間自身や人間社会を取り巻く世界の魅力を伝える舞台芸術」という人形劇の社会的意義と、とらまる座の持つ人形劇文化の拠点および地域芸術文化の拠点としての存在意義から、「コロナ禍だからこそ、人形劇を、とらまる座の事業を絶やしてはならない」という信念に基づき、公演事業および普及啓発事業において主要素を欠くことなく事業を実施したことは、地域の文化振興にとどまらず、国内の人形劇～芸術文化活動の啓蒙・再興、健全な社会幸福の回復に大きく貢献したものと捉えている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

○地域での創造性波及効果

人形劇は、演劇・美術・造形・物語創作・音楽・空間演出等 多要素が集合した総合芸術である。とらまる座では、子どもから大人まで楽しめる人形劇プログラムに加え、高度・斬新な演出・美術様式・社会的テーマ・ハイレベルの演技といった優れた芸術性で構成された特別公演プログラムも実施している。当年は、当初計画であった特別公演事業の多くがコロナ禍の影響により中止となったが、その余剰予算を活用し、特別公演規模の人形劇プログラムを定期公演事業において代替企画として実施した。

3月の公演では、地元東かがわ市の若手陶芸家が他県の造形美術家やバレエユニットのメンバーと共に鑑賞し、その公演に感銘を受けたメンバーから「バレエと人形劇のコラボレーション作品」の制作企画が提案され、2022年9月の公演を目指して制作進行している。

多種多様な人形劇プログラムの定期的・日常的な公演開催は、地域内外のアマチュア劇団においても創造性刺激・研鑽の機会となっている。また、幼保子ども園・小学校等の教育機関においても先生から「この前見た人形劇の表現を発表会の演出に取り入れた」と言われるように、地域文化活動の糧となっていることが示されている。

本年の小学生劇団育成事業においては、中学校の家庭科クラブから人形製作協力の申し出があり、コロナ禍の影響により夏休みの特別活動(人形製作のための特別活動)が実施できなくなった小学生メンバーに代わり、中学生が人形製作に取り組んだ。元来、人形劇文化からは自然と離れる年代の中学生が地域の人形劇事業に参加する機会となったことは、コロナ禍の不幸中の幸いといえる事象ではあるが、大きな意義があったといえる。当館の専門員による高度な劇人形製作は、参加した中学生及び教員にも人形劇が持つ奥深い魅力と創造性の一遍を体感する機会となり、人形劇とは縁遠い年代の教育機関においての地域文化振興に寄与したものと捉えられる。

○運営団体の創造性

多彩な劇団の公演プログラムの企画・実施は、自らが人形劇創作および上演を担う当運営団体・スタッフにおいても、創作における構成や美術の構想、人形操演などの創造性刺激に有用なものである。また、大型人形劇の公演では、上演団に付随する外部の舞台スタッフとの協働作業や交流もまた、当スタッフの舞台技術レベルの向上につながっている。企画の面では、2015年度の事業から海外劇団公演企画を実施するにあたっての関連機関とのパイプが構築され、また、助成金の活用・機材の整備など、海外劇団企画を毎年の恒例企画とするノウハウを積み上げてきた。今回の特別事業では、「国際舞台芸術機関連携企画公演」として、ASSITEJ（国際児童青少年舞台芸術協会）や日本UNIMA（国際人形劇連盟ウニマ 日本センター）事務局との企画連携体制を構築した。

当年は、コロナ禍の影響により様々な事業に計画調整・プログラム変更を生じたが、それはまた(皮肉にも)、不測の事態への対応力や、企画運営力の向上につながったといえる。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

2012年(平成24年)「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」が制定され、地域の文化施設は主体的な芸術文化事業の意義が重要視されるようになった。また、近年では「社会包摂～あらゆる分け隔てのない健全な社会の構築～」の意義も高まっている。人形劇場とらまる座は、人形劇専門劇場として国内屈指の公演実績を持ち、また、人形劇は、最も普遍的かつ多元的多様性を包含した芸術文化である。

一般社団法人パペットナビゲートは、2013年度に人形劇場とらまる座(を含む「東かがわ市とらまるパペットランド」)の指定管理者となって以降、国の文化政策の推移とともに、まさに「時代の後押し」を受けて、その事業実績を着実に向上させてきている。とらまる座では、2015年度の事業から関連国際機関との連携が密となり、また毎年海外公演事業を実施してきた過程で主催劇場としての体制・ノウハウを構築してきた。また、とらまる座の持つ優れた企画力・現場対応力は、国内の人形劇を含む芸術創造団体や国際企画中枢機関からの信頼も厚い。企画内容の向上とともに広報戦略も向上させ、特別公演実施時には、東かがわ市～香川県内はもとより、高度な人形劇プログラムの鑑賞機会に乏しい中四国・西日本広域から多くの鑑賞ファンが訪れるようになった。2016～2018年の海外劇団公演事業では、いずれも企画主催者の見込みを上回る集客があり、今後の海外作品企画にも期待が寄せられている。

事業拡充とともに事業費も増大するのは当然であるが、とらまる座の存在と事業意義は行政にも認められており、2018年度の指定管理更新時には指定管理料7.3%増額(3261万→3500万)となった。また2020年度は指定期間途中でありながらも6.3%増額(3500万→3721万)となっている(*もともと、管理運営・指定事業に対しての委託料設定がそもそも低すぎるともいえるが…)。また、事業費の拡大に応じて各種助成金獲得額も年々増額している。これは地域自治体のみならず、芸術文化中枢機関にも広く当館の事業意義が認められていることを示している。

人形劇場とらまる座は2022年に30周年を迎える。同時に、隣接付帯施設であるとらまる人形劇ミュージアムの20周年および「とらまるパペットランド」の設立20周年、当法人10周年を迎える特別メモリアルイヤーであり、現在、「2021年～2023年3カ年特別プロジェクト」を発足し、様々な発展的事業プランが構想・遂行されている。…一方で、この新型コロナウイルス禍が芸術文化活動・社会の営みに未曾有の危機的状況を生み出してしまっている。しかしながら、当館は、国内随一の人形劇場として、また、地域随一の劇場運営を目指して優れた舞台芸術作品を提供するとともに、これまでの事業に加え、人形劇文化と地域文化の発展につながるべく、事業展開(自主制作公演、高齢者対象の人形劇事業、世代間交流事業、劇場設備バックツアー企画、創造団体連携のプロデュース公演企画など)を見据え、地域行政および関連機関・地元住民団体との連携を深め、地域文化創造の中核劇場としての役割を果たし、コロナ禍により大きく損なわれた芸術文化活動の再興と、健全な社会幸福の復旧に尽力する所存である。